

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成する。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>・生徒が自己肯定感をもてる授業を推進し、研究授業を活用するなどして教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。</p> <p>・卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な学習の時間」における資格取得の向上への取組など、早期からキャリア教育を意識して進路支援の充実に努めることが必要である。</p> <p>・支援の必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりを推進し、出来るだけ早期から外部関係機関との連携を進めていくことが必要である。</p> <p>・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、進路指導における全体の指導力の向上が必要である。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>(1) 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実</p> <p>(2) 部活動の充実</p> <p>(3) コミュニティー・スクールの推進</p> <p>(4) 教職員の資質向上と健康増進</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	○生徒が自己肯定感をもって取り組めるような授業の工夫と改善	・理解しやすい授業、わかる授業、参加している実感や興味をもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4: 80%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 40%以上であった。 1: 40%未満であった。	4	・今年度は89.2%であり、昨年の89.0%を上回ることができた。多くの教員は、生徒が興味をもって授業に参加し、理解してもらうにはどのような授業をすればよいか日々考え試行錯誤しながら教材研究に励んでいる。少人数のクラスにおいて個々の生徒に対してわかる授業を心掛けている。 ・個々の生徒が自己肯定感をもてる授業の工夫と改善も少しずつ進んでいる。	教育の質を向上させるためには内外からの他者の目が必要であり、積極的に授業公開に参加されたことは評価できる。今後も授業の工夫をより一層進めてほしい。個々の自己肯定感をもてる授業の工夫がある	A
	○教員相互の授業研究・公開授業の推進	・本校、他校、小中学校などの公開授業に参加し、授業研究を進める。	4: 3回授業参観し、授業研究に努めた。 3: 2回授業参観し、授業研究に努めた。 2: 1回授業参観し、授業研究に努めた。 1: 授業参観することはなかった。	3	・本校、他校の公開授業などに2回以上参加(参観)し教員相互の授業研究を進めることができた。その結果授業の改善に役立てることができた。 ・本校実施の公開授業では、中学校等の参加者があり、アンケートでは、楽しそうに学んでいた・少人数の指導なので生徒一人ひとりに目が行き届きアットホームな雰囲気だった等の意見をいただいた。さらに授業の改善に役立てていきたいと思う。		
生徒指導	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに発展させる。また保護者との連絡を頻繁に行い、家庭との協力や相談を密にする。	4: 校内だけでなく校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3: 校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2: 生徒への対応が図られた。 1: 生徒への対応に不十分な点が多かった。	4	・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。必要に応じて、保護者のカウンセリングも行っている。 ・また、校外での各組織(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事案によっては協議している。	生徒が抱える課題は多様化している。これからも外部機関とのコミュニケーションを図ってほしい。 生徒へのサポート体制もしっかりとおこなわれていて、定時制の生徒たちも安心して学校に来ることが出来ると感じたし、そうあってほしい。 アンケートのパーセンテージで示されるものだけでなく、個別の事例へのアプローチを個人情報に差し障りのない範囲で示して欲しい。	A
	○日常の生徒の意識や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築	・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が多様多様であるため、学校不適應による意欲の低下やいじめなどの人間関係を事前に察知し、全教員で情報の共有をはかる。また、学校生活アンケートを実施する。	4: 個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3: 個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2: 支援と指導に取り組んだが、事後対応が主であった。 1: 支援と指導が不十分であった。	3	・生徒一人ひとりの状況を担任が把握し、教育相談や生徒指導担当との情報共有を行っている。全体の職員会議においても、定期的に情報交換を行い、支援や指導方法について模索してきた。 ・特に、高校で学習し卒業するという価値観に乏しい生徒や、個別支援が必要で集団生活が難しい生徒への対応に苦慮している。		
進路指導	○進路目標をしっかりと持ち、夢の実現にむけチャレンジし続ける生徒の育成する。	・各担任を中心として、情報交換を密にし、生徒各個人の進路希望の把握する。生徒個々に応じた効果的な個別指導に繋いでいく。	4: 7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3: 半数以上の生徒へは支援をすることができ具体的な進路に結びついた。 2: 情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1: 情報伝達に終わった。	4	・今年度の卒業生は早くから進路意識が高く、各自で進学先や就職先について研究し、目的を持って学校生活に取り組むことができた。その結果、全員が第一希望の進路先を選ぶことができた。来年度以降も生徒本人が早くから進路意識をもつような指導に継続して取り組んでいきたい。 ・総合的な学習の時間などを使った低学年からのキャリア教育がより必要である。	キャリア教育の総合的な学習の時間について参観ができるとよいと思った。今年度の卒業生は進路意識が高い学年のようなので、これからも生徒が進路への高い意識を持ち続ける高校であってほしい。検定の合格率向上など、今後の課題もしっかりと見据えることができているようなので、来年度に期待が高まる。	B
		生徒個別の進路実現をはかるため、授業内での基礎学力の充実に取り組むため、出席率の向上させる。また、「総合的な学習の時間」を利用して、検定の合格を目指す。	4: 生徒のほとんどが出席率90%以上で、資格受検率も90%以上であった。 3: 生徒のほとんどが出席率80%以上で、資格受検率も80%以上であった。 2: 生徒のほとんどが出席率70%以上で、資格受検率も70%以上であった。 1: 生徒のほとんどが出席率70%以上で、資格受検率も50%以上であった。	3	・全体の出席率は90%をやや下回った。(第2学期末まで約88%)。検定等の受検については、40名(のべ人数)のうち約35名が受検し9名が合格した。受検率は77%と昨年度と同じであるが、合格率は26%で昨年度の55%を大きく下回った。合格率が下がった要因として、個人の選択と検定・資格の種目の不一致が大きな原因と考えられる。生徒個々にマッチするような取り組みと指導が必要と考えられる。特に漢字検定の選択者の合格率が低く、漢字検定については受検する級の選択を慎重に選ばせる必要があると考えられる。		
特別活動	○生徒会における自主的な企画と活動を促し、生徒自身の力で良き慣習が引き継がれるように支援する。儀式的活動では望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事において、生徒会役員のみならず全生徒を主体的に活動させる。始業式や終業式、定体連行事などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出に残るものとさせる。	4: すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 3: 2つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 2: 1つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 1: すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができなかった。	3	・生徒会中心の行事については例年のスタイルがほぼ完成されていた。生徒会の中では、例年通りの伝統を引き継ぎつつも、独自性を出せるよう検討して、今年度は、新たな行事を試行することができた。 ・生徒数は40名余りではあるが、集団に参加できない、意欲がないなど多様な生徒がいる。これまで以上に個別の支援や配慮が必要である。全員が主体的に活動できよう様々な工夫が必要である。	新たな行事に取り組まれた点が評価できる。またそれら行事に楽しんで参加してもらえるよう、色々努力されていることがわかる。これだという答えの無い中、様々な事情を抱えた生徒の指導のこころを知る機会となった。	A
業務改善	組織的な取組	・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、教職員間の情報交換を活発に行い、全員で進路指導にあたる。	4: 教員同士の連携が進み指導力の向上がみられた。 3: 教員同士の連携は進んだが指導力の向上までは至らなかった。 2: 教職員同士の連携は従来通りで大きな変化はなかった。 1: 教職員同士の連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。	4	・大学進学、専門学校進学、就職、高校卒業資格取得と生徒の進路希望の多様性が増し、さらに専門の支援を必要とする生徒も増加している。保護者、スクールカウンセラー、ハローワーク等の関係機関と連携をとりながらキャリア教育に力を入れている。進路指導の結果、進学希望者全員の進路決定ができた。 ・早い段階から進路意識の醸成のために教職員全員で協力して進路指導に当たることが必要である。	指導力が向上したかどうかは単年度だけでは判断しにくいが生徒が希望した進路に進めたことは評価できる。指導力向上を進路や検定結果に結び付けてほしい。	B
	○教職員の進路指導における指導力の向上						
	整理整頓	・書架や供覧文書の設置場所など、職員室の作業環境を見直し、ワーキングスペースを拡充する。	4: 作業環境が整理整頓され、ワーキングスペースが拡充された。 3: 作業環境が整理整頓されたが、ワーキングスペースの拡充には至らなかった。 2: 作業環境は従来どおりで変わらなかった。 1: 今年度分の増加で、作業環境がより劣悪になった。	3	・書架や供覧文書の確認をしながら、過去の文書等の移動・廃棄等を行い設置場所や作業環境の改善を行った。ただし、効率的な文書等の整理が不十分であり、作業スペースの拡充には至らなかった。 ・校内のサーバー内の文書整理を行った。同一の形式を取ることによって業務の効率化が図られた。今後も継続してデータの整理をしていく必要がある。		
	○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化	・校内のサーバー内の文書を整理し業務の効率化を図る。					

A: 取組が優れている B: 取組がよい C: 取組がおおむねよい D: 取組に改善が必要

【成果】	<p>①授業参観や互見授業等による研修は一定の効果が得られている。授業アンケートでも肯定的な評価の割合が増加した。</p> <p>②学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、外部機関と連携して生徒支援を行うことができた。</p> <p>③4年生に対して、進路について、個別に支援を行うことができた。進路意識も高く進路実現に向けて努力をし目標を達成した。</p>
【課題】	<p>①高校を卒業するという意欲の乏しい生徒への支援について、目標を発見させて、成長を促していくことが出来ていないこともあった。キャリア教育や外部機関との連携を深めて、色々な生徒について支援をしていきたい。</p> <p>②資格取得の取組(キャリアアップ)については昨年度のような成果は得られなかった。生徒個々にマッチするような取り組みと指導が必要と考えられる。総合的な探究の時間を使った低学年からのキャリア教育がより必要である。</p> <p>③大学進学、専門学校進学、就職等、生徒の進路希望が多様化する中で教職員のさらなる指導力の向上を図ることが必要である。</p>

7 次年度への改善策	
<p>①授業参観や互見授業等による研修は一定の効果が得られている。さらに次期学習指導要領に関する研修会への参加や公開授業での参加人数の増加について検討していく。</p> <p>②生徒指導及び進路指導では、多様な生徒に対して学校組織だけでなく、スクールカウンセラー、ハローワーク等の専門機関との連携をさらに深めて対応していく。</p> <p>③検定学習に関しては種目選択の際にマッチングの問題と受検する級の設定を個別に丁寧に確認をしていく。特に漢字検定に関しては慎重に選択をさせる。</p>	